

離れていても【小学校高学年】

- 1 主題名** 互いに信頼し合う友情 **内容項目** B 友情、信頼
- 2 ねらい** 友情の在り方について、多様な感じ方や考え方を出し合い吟味する過程を通して、物理的な距離ではなく信頼し合うことが友情を深めるために大切であることに気づき、よりよい友人関係を築いていこうとする態度を育てる。

3 展開例

	学習活動と主な発問	指導上の留意点
導 入	1 友情についての事前アンケート結果を見る。 ・あなたにとって大切な友達とは、どのような友達ですか。	・「いつも側にいてくれる」といった回答から、これから本時で考える友情についての問題意識をもたせる。
展 開	2 教材「離れていても」を聞き、話し合う。 (1)仁の後ろ姿を見ている時、ぼくはどんな気持ちだったでしょうか。 (2)父の会議の様子を見た後、父からの言葉を聞いたぼくは、心の中でどんなことを思ったでしょうか。 (3)遠く離れた場所で、笑顔の仁を思い浮かべている時、ぼくはどのようなことを考えていたのでしょうか。 (4)友情を深めていくために大切なことはどのようなことですか。 3 自己を見つめ、振り返る。 (4)で考えたように、離れていても信頼する気持ちがあれば友情を深めていけるという考え方をしましたか。	・仁の後ろ姿を見ている時のぼくの驚き、悲しみ、不安等の気持ちを考えることを通して、本時のねらいと対立する「友情は近くにいないと成立しない」という仁の捉え方を明確にする。 ・父の話聞き、不安が消え、安心するぼくの様子を考えると通して、相手を信頼し、大切にすることを考えられるようにする。 ・離れていても友情を大切にしている2人と、それぞれが近くにいる友達ともよい関係を築いていることを考えさせる。 ・教材を通して話し合った、「物理的な距離ではなく、信頼し合うことが友情を深めるために大切である」ということを、より明確にする。 ・問いかけに対し、したことがあった児童はその時の自分の経験を振り返り、したことがなかった児童は新たな学びとして自分が考えたことを書くことができるようにする。
終 末	4 教師の説話を聞く。	・離れている友達について教師の経験を話したり、何よりも大事なことは相手を大切に思う心であることを話したりすることが考えられる。

4 教材作成の意図と取扱いの留意点

コミュニケーションの方法が変化しても、人と人とのやりとりや、関わり方の根底にあるものは変わらない。このことを踏まえ、本教材は、情報機器を活用するよさと合わせて、それらを活用する人間の思いについて扱っており、「友情、信頼」について考えることを意図した教材である。さらに、事後資料（「こんな使い方ができるよ」）において、タブレット（※）を使う様々なよさについても触れ、使用する際、そこにある人間同士の思いが重要であることを、改めて押さえられるよう配慮していく必要がある。

※ここでのタブレットは個人所有のものを指しており、児童生徒に1人1台配布された学習者用端末ではないことに留意すること。